

不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

ネズミの持ち物

令和二年の干支は子(ネズミ)です。京都でネズミといえば哲学の道沿いの大豊神社。末社の大國主社の狛ネズミが有名です。このネズミは両手に玉と巻物を抱えています。玉は百薬の長・酒を入れます。設置された方がそう説明し



大豊神社末社 大國主社

ておられるようなので恐らくそうなのでしよう。

しかしよく見ると持っている玉には何本かの筋が入っています。このお社のご祭神が日本の国造りを行った大國主命ですから別の考え方もできそうです。筋が入った玉といえば宝珠。これに炎が加わると火焰宝珠となり通称稲荷玉と呼ばれます。稲荷は伏見稲荷。そういえばお稲荷さんの狐は宝珠と巻物、それに稲穂と鍵を咬えています。

実は宝珠の本体は仏舎利、お釈迦様の骨です。この骨は白く小さなため、お米と同一視されます。お寿司のネタとシャリですね。そしてこの宝珠を持っているのは龍です。顎の下や手にこの玉を保持しています。お米の豊作に欠かせないのは五風十雨の順行。つまり雨を司る龍はこの宝珠の権現とされます。さらに密教で旱天に雨を呼ぶ雨乞いの請雨經法という秘

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都
検定

京都・観光文化検定試験
京都商工会議所



巻物を持った狐ねずみ



玉を持った狐ねずみ

法の本尊が宝珠なのです。

狐が持つ稲穂はもちろろん米。鍵は米の豊作を司る伊勢神宮の米の保管庫、御稲御倉の鍵とされています。この倉庫の鍵を持つのが伏見稲荷で、ご祭神の宇迦之御魂神は伊勢神宮外宮の神・豊受大神と同じとされます。稲荷の氏子だった有名な江戸の花火師が「鍵屋」と「玉屋」だったこともわかりますね。

大國主の国造りにとって長寿の酒も学問の知恵ももちろん必要でしょうが、五穀豊穡の源、米とその生育に欠かせない雨もまた大切だったことでしょう。ネズミが持っているのは米の象徴である宝珠と雨を呼ぶ経巻なのかも知れません。

何事も考えてみることは楽しいことです。本年が皆様にとって楽しい一年でありますように。

(同志社大学嘱託講師 堤勇二)



四種を咬えた伏見稲荷のきつね